（様式第８号）

事業報告書（令和　２　年度）

事業名　グローバル人材の育成（第17期国際塾、ESD Café 2020）

団体名　NPO法人　こくさいこどもフォーラム岡山　　担当者名　難波　徳行

※活動の様子がわかる写真（データもお願いします）と説明を必ず添付してください。

１．活動内容（日時、場所、参加対象者、人数、内容等）
１・第１７期　国際塾 ・県下中・高校生を対象、講師：県内外の学識経験者 ・日程　６月７日～１０月１８日　全１０回の講座を開催した。 ★カリキュラムについては、添付資料を参照。 ・塾生　５０名　２０校 ・新型コロナウイルス感染対策のため　第１回～第９回は、ZOOMによるオンライン講義を実施した。第１０回（兼卒塾式）のみ対面方式で実施。 II・ESD Café 2020 ・イベントの性格上、対面での開催を考えたが、新型コロナウイルス感染の拡大防止を最優先すべきとの結論に達し、開催を断念した。
２．ESDの視点を取り入れたところ、ESDの視点で見直したところ
・講座の開始にあたって、塾生を５グループ（A～E）に編成。全グループに共通の課題「２０４０年の岡山と私」を与え、通年にわたり各グループ内で議論してもらった。 2040年のあるべき岡山の姿、あるべき私、果たすべき私の役割等について、塾生たちだけで議論してもらった。 第10回で、全グループがその結果を発表したが、いずれも予想以上の出来栄えであった.
３．取組の成果（参加者にどのような意識や行動の教育上の成果があったか。感想など）
①自ら考え、それを積極的に発表（表現）することができるようになった。 平素、教室では聞けない講義に接し、塾生たちは　多くの気づきを得たようである。 授業ごとのレポートや感想、上記のグループ発表の出来栄えなどから彼らの成長ぶりを確認できた。 ②ZOOMによる講義は、最初は不慣れによるぎこちなさが見られたが、回を追うごとに不自然さはなくなり、質問も飛び交うようになった。塾生たちは、今期の講座を通じて、デジタル時代の有力なコミュニケーション手段であるZOOMのスキルを身に着けたようである。

（様式第８号）

４．今後の課題と展望
①コロナ騒動の終息が前提であるが、やはり対面での講座を基本としたい。 　塾生同士の交流を通じての気づきや相互啓発は、彼らの成長にとって、不可欠であろう。 ②但し、今やZOOMは有力なコミュニケーション手段となったといえる。したがって、時に応じて、ZOOMを活用したい。 　例えば、下記のような利点がある。 ・塾生たちが、ZOOMのスキルを習得できる。 ・遠隔地の生徒も参加できる。 ・講師を幅広に選定できる（岡山あるいは日本国内の在住者に限定する必要なし） ③塾生をグループに編成、通年にわたりグループ内で議論するやり方は、塾生たちに相互啓発をもたらす。次年度は、ここに世話人諸氏もメンターとして参加する予定である。